

## 第2回宇都宮市通学区域審議会会議録

日 時 平成 14 年 2 月 27 日(水) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

場 所 市役所 13 階 教育委員室

出席者 [委 員]津布楽会長,山本副会長,大野委員,新川委員,堀田委員,須藤委員,  
小林委員,湯澤委員,関口委員,坂井委員,梅園委員,吉田委員,  
綱河委員,浅川委員,入江委員  
[事務局]教育長,教育次長,教育委員会総務課長,学校管理課長,  
学校教育課長補佐,外 5 名

公開・非公開の別 公開

傍聴者 なし

会議次第

### 1 開会

### 2 議題

- (1) 会議の公開・非公開と会議録の取扱いについて
- (2) 第1回会議録の確認について
- (3) 通学区域の現状と問題点について
- (4) 次回会議の日程について
- (5) その他

### 3 閉会

会議の概要

#### 1 会議の公開・非公開と会議録の取扱いについて

・事務局より説明し,了承を得た。

#### 2 第1回会議録の確認について

・事務局より説明し,了承を得た。

#### 3 通学区域の現状と問題点について

・事務局より説明し,その後,意見交換を行った。

#### 4 次回会議の日程について

・第3回審議会の開催日時について協議し,4月22日(月)午後1時30分から開催することとした。

発言の要旨

(現状と問題点について)

委 員・現在の学級編制は,学級定員は40人を標準としながら,これを下回ることもできるよう法改正されたが,審議会では,1学級40人をベースに考えていくことになる。

委 員・児童数の少ない学校の中には,6年後に極端に少なくなってしまう学校がある。

学校がなりたたなってしまうことはないか。

事務局・児童数の少ない学校の多くで、今後、さらに小規模化が進むことが予想される。平成14年度から複式学級の学校も1校増える見込である。このように、規模の格差が拡大することが問題となっている。

委員・同じ自治会でありながら小学校の学区が2つに分かれるところがある。以前は子ども会も別々であったが、現在は一緒に活動している。このようなところは、学区を一緒にした方がいいのではないか。

事務局・ご指摘のような地区についても、ブロックごとに検討するときにご審議いただく予定でいる。

委員・遠距離通学地区の見直しで、小学校の学区を変更した場合、中学校の学区も変更する必要があると思うが、該当する学校の児童生徒数の増減は把握しているか。

事務局・現時点では、調査していない。今後、ブロック別に学区の具体的な見直しを検討する際に、裏付けとなる資料を用意し、ご審議いただく予定である。

委員・大規模開発計画地区の中で、現在、宅地分譲が進んでいないところもある。販売開始時期は把握しているか。

事務局・資料は、現在計画がある地区を記載した。販売時期については、再度確認した上で、ブロック別の検討の際に説明したい。

委員・小学校の複式学級の人数は16人以内だが、二つの学年を合わせても数人しかいないような場合には、学級として成り立つのか。

事務局・小学校で複式学級を編制する基準は、二つの学年を合わせて、1年生を含む場合は8人以内、それ以外は16人以内である。子どもが少ない場合でも学級は、子どもが全くいなくなる限り存続することになる。

委員・対象校ごとに検討して学区の見直し案をつくり、地域懇談会を設置して地域と協議し、見直し案と地元の意向とがかけ離れている場合には、再度審議会で審議することになっているが、地域懇談会を先行させることは考えられないか。

事務局・審議会の答申を踏まえ、まず、市として全市的な視点から基本的考え方や具体的取組などの見直しの計画をつくり、その後、地域懇談会を設置して地元と協議していきたい。

委員・市が計画を固めて地域に説明し、やってくださいという形ではうまくいかないのではないか。計画を決定する前に、地域の意見を聞いて計画を調整する必要があるのではないか。

事務局・計画というと変更できないものとの印象を受けるが、内容的には、方向性や実施順位などであり、地元との協議の結果、地元の意向と大きく乖離する場合には、再度審議会でご審議いただき調整する予定である。

- 委員・素案の段階で地域と協議するということによろしいか。
- 事務局・そのとおりと理解いただいてよい。方向性の段階のものと考えている。
- 委員・審議会は、市全体の通学区域見直しの基本的な考え方と個別具体的な取組について答申する。懇談会の提言においても適正規模の範囲外とされる学校であっても全てが不適正ということではないので、地域の地理的・歴史的状況も踏まえながら、市民の立場に立って検討していく。
- 委員・複式学級は、子どもにとって教育上問題はないのか。また、先生の負担の面で問題はないのか。
- 事務局・複式学級の問題については、次回の会議で資料を提出し、説明する。
- 委員・複式学級であっても情報教育の分野では変化が見られる。以前は、複式は、コミュニケーションが不足するといわれていたが、県内でも沖縄や北海道の小学校とTV放送を活用して定期的に交流している学校がある。インターネットの時代になるとこれまでのとらえ方で論じることは難しい。しかしながら、子どもの実体験は限定される。栃木県へき地複式分校教育研究会があるので、その資料を参考にしてはどうか。
- 委員・小規模校の問題については、懇談会の提言書にまとめてあるが、複式の問題について次回検討していく。
- 委員・具体的にどのようなブロック分けを考え、どのように審議を進めていくのか。
- 事務局・5つ位のブロック分けを考えている。対象校の検討の前にブロック分けの素案について委員にお諮りする。ブロックごとに対象校の検討をした後で、全体で調整を加えていく予定である。
- 委員・自治会連合会は、5つのブロックに分かれているので、参考にしてはどうか。